

自閉症児・者に対するスポーツ指導について

—文献による調査研究—

亀田 翔太 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)

指導教員 金田 安正

キーワード：自閉症 運動・スポーツ 文献調査

I はじめに

筆者は大学に入り、障害のある方に対して様々な運動・スポーツ指導を行ってきた。その中で苦労したのが自閉症児・者への指導である。

自閉症とは、社会性・コミュニケーション・こだわりの3つの特徴を中心とする障害である。しかし、その他に模擬能力、知的レベルなど様々な問題を併せもつ者がいる。このような自閉症の特徴や個人差が原因で指導に行き詰ることが多かった。

そこで本研究では、自閉症児・者に対するスポーツ指導について書籍・機関誌等の文献を調査し、いろいろな指導法を把握し、さらに、筆者や第三者が指導につまずいた時の手だてとなるように、調査内容をまとめ、整理することを目的とする。

II 方法

1 調査方法

本学や大阪教育大学附属図書館、大阪府立図書館等での調査。

2 対象となる文献

(1) 文献の種類

- ・書籍
- ・機関誌(〇〇研究会などが発行する雑誌等)

(2) 対象となる障害

自閉症や自閉的傾向、高機能自閉症、アスペルガー症候群などの発達障害を対象とする。

(3) 内容

- ・運動、スポーツ、体育、遊び、療法 など

III 結果・考察

1 調査数

調査した文献数は書籍 29 冊、機関誌 38 冊であった。

2 項目の分類

文献から3つの項目(指導法・指導目的・運動種目)に大別することができた。次に、その概要を示す。

1) 指導法・療法

「視覚的手がかり」「場・時間。手順の構造化」を含む「THACCHプログラム」の使われる方法が多くみられた。その他、THACCHプログラムと同様の方法が使われている「応用行動分析」や「感覚統合療法」、「ムーブメント教育」の考えを生かした方法などが見られた。

2) 指導目的・ねらい

コミュニケーションを苦手とする自閉症に対し、「人とのかかわりを深める」「集団活動」が指導目的として多くみられた。その他、「社会性」「模擬能力」「感覚機能」などを目的にした文献がいくつか見られた。

3) 運動種目・プログラム

自閉症が好んで行う「水泳」「トランポリン」「キャスターボード」が運動種目として多くみられた。また、「サッカー」「運動会」など自閉症が苦手とする運動種目を工夫することで、参加できるようにした文献がいくつか見られた。

IV おわりに

運動・スポーツのあり方、とくに、実践を通じた指導法・指導目的・運動種目を把握することができた。

今後は調査した内容を自分の実践に生かしていきたい。また、実践報告などできるだけ多くの文献を読み、より良い指導が行えるようにしていきたい。

参考文献

山下 久仁明、(2008)、「おさんぽいってもいいよお〜」、ぶどう社